2024年度第２回ファイナンシャル・プランニング技能検定１級実技試験

Part Ⅰ（2024年９月28日）　　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

●設　例●

地方都市のＮ市に所在するＸ株式会社（非上場会社・精密部品製造業）は、代表取締役社長のＡさん（75歳）が42年前に設立した会社である。Ｘ社は製品を海外にも販売するなど技術力には定評があり、業績は堅調に推移してきた。現在、Ｘ社では専務取締役である長男Ｃさん（48歳）を中心に、さらなる販路拡大と新製品の開発を推進している。

【Ｘ社の事業承継】

現在、Ｘ社株式の100％をＡさんが保有している。Ａさんは、自身の年齢のことを考え、そろそろ長男Ｃさんに事業を承継するつもりであり、Ｘ社株式をどのように移転すべきか、対策を講じたいと思っている。そのような折、ＡさんのもとにM&Ａ仲介業者が訪れ、「買手企業は上場企業でＸ社の技術力を高く評価している。一度、相手方と面談する機会を設けてもらえないだろうか」と提案を受けた。長男Ｃさんに承継させる考えに変わりはないが、M&Aについてもメリット・デメリット程度は把握しておきたいと思っている。

【Ａさん自身の資産承継】

Ａさんの自宅の土地はＡさんの父親が購入したもので、父親の相続により弟Ｅさん（70歳）と各２分の１の持分で共有している。弟Ｅさんも同じ土地上に自宅を建築し、家族とともに暮らしている。Ａさんと弟Ｅさんは釣りが趣味であり、週末は一緒に釣りに出かけるなど、関係は良好であるが、将来のことを考えると、共有のままでよいのか不安を抱いている。

先日、勤務歯科医である二男Ｄさん（41歳）から歯科医院開業の用地としてＡさんが所有する甲土地を使わせてもらえないかとの相談があり、甲土地を歯科医院の用地として無償で貸すことにした。将来的には、甲土地を二男Ｄさんに相続させてもよいと思っている。

なお、Ａさんは、子や孫に資産形成の手段として今年から始まったNISA制度を勧めたいと思っている。

【Ａさんの家族構成（推定相続人）】

妻Ｂさん　（74歳）：専業主婦。Ａさんと自宅で同居している。
長男Ｃさん（48歳）：Ｘ社の専務取締役。妻と子２人の４人で持家に居住している。
二男Ｄさん（41歳）：勤務歯科医。妻と子２人の４人で賃貸マンションに居住している。

【Ａさんの所有財産の概要】（相続税評価額、土地は小規模宅地等の評価減適用前）

１．現預金	：	8,000万円	（役員退職金は考慮していない）
２．有価証券	：	6,000万円	
３．Ｘ社株式	：	２億円	
４．自宅土地（全体700㎡）	：	4,000万円	（持分２分の１の評価額）
５．自宅建物	：	1,000万円	
６．甲土地（400㎡）	：	5,000万円	（アスファルト敷の月極駐車場）
合計	：	４億4,000万円	

※Ａさんの相続に係る相続税額は、約１億1,000万円（配偶者の税額軽減・小規模宅地等の評価減適用前）と見積もられている。

【Ｘ社の概要】

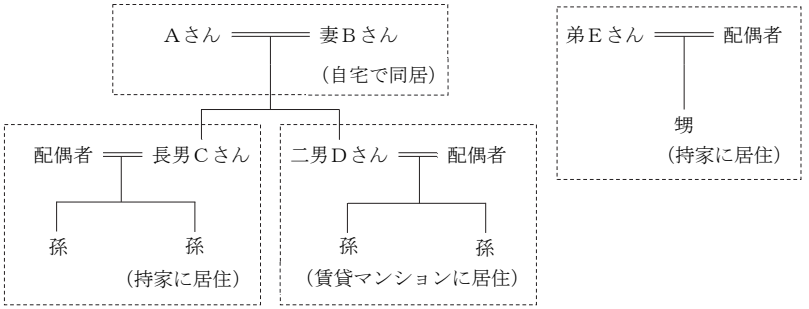
資本金：5,000万円　会社規模：大会社　　従業員数：83人　　配当：毎期30円／株
売上高：36億円　　経常利益：4,000万円　　余剰資金：４億円
株主構成（発行済株式総数４万株）：Ａさん100％
株式の相続税評価額：類似業種比準価額5,000円／株、純資産価額7,000円／株

（注）設例に関し、詳細な計算を行う必要はない。

検討のポイント

●設例の顧客の相談内容および問題点として、どのようなことが考えられるか。
●それらの相談内容および問題点を解決するために、どのような提案・方策が考えられるか。
●それらの方策（解決策）のなかで、何を顧客に提案するか。その理由・留意点は何か。
●ＦＰと職業倫理について、どのようなことが考えられるか。

【親族関係図】



（メモ余白）